

四半期報告書

(第7期第2四半期)

自 平成21年10月1日
至 平成21年12月31日

比較.com株式会社

東京都渋谷区恵比寿一丁目21番3号

表紙

第一部 企業情報

第1 企業の概況

1 主要な経営指標等の推移	1
2 事業の内容	2
3 関係会社の状況	2
4 従業員の状況	2

第2 事業の状況

1 生産、受注及び販売の状況	3
2 事業等のリスク	3
3 経営上の重要な契約等	3
4 財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析	4

第3 設備の状況	6
----------	---

第4 提出会社の状況

1 株式等の状況

(1) 株式の総数等	7
(2) 新株予約権等の状況	7
(3) ライツプランの内容	9
(4) 発行済株式総数、資本金等の推移	9
(5) 大株主の状況	10
(6) 議決権の状況	11

2 株価の推移	11
---------	----

3 役員の状況	11
---------	----

第5 経理の状況	12
----------	----

1 四半期連結財務諸表

(1) 四半期連結貸借対照表	13
(2) 四半期連結損益計算書	14
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	16

2 その他	23
-------	----

第二部 提出会社の保証会社等の情報	25
-------------------	----

[四半期レビュー報告書]

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成22年2月12日
【四半期会計期間】	第7期第2四半期（自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日）
【会社名】	比較.com株式会社
【英訳名】	Hikaku.com Corporation
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 渡邊 哲男
【本店の所在の場所】	東京都渋谷区恵比寿一丁目21番3号
【電話番号】	03-5447-6690
【事務連絡者氏名】	取締役 経営企画室長 峰崎 揚右
【最寄りの連絡場所】	東京都渋谷区恵比寿一丁目21番3号
【電話番号】	03-5447-6690
【事務連絡者氏名】	取締役 経営企画室長 峰崎 揚右
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第6期 第2四半期連結 累計期間	第7期 第2四半期連結 累計期間	第6期 第2四半期連結 会計期間	第7期 第2四半期連結 会計期間	第6期
会計期間	自平成20年 7月1日 至平成20年 12月31日	自平成21年 7月1日 至平成21年 12月31日	自平成20年 10月1日 至平成20年 12月31日	自平成21年 10月1日 至平成21年 12月31日	自平成20年 7月1日 至平成21年 6月30日
売上高 (千円)	329,442	467,404	178,815	238,959	725,698
経常利益又は経常損失 (△) (千円)	△22,698	74,234	9,195	46,707	△20,289
四半期純利益又は 四半期(当期)純損失 (△) (千円)	△39,692	38,901	366	17,911	△17,845
純資産額 (千円)	—	—	1,594,876	1,660,996	1,623,122
総資産額 (千円)	—	—	1,725,045	1,785,974	1,746,254
1株当たり純資産額 (円)	—	—	49,776.90	51,153.29	49,951.96
1株当たり四半期純利益又は 四半期(当期)純損失金額 (△) (円)	△1,242.40	1,201.34	11.48	553.12	△558.44
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益金額 (円)	—	1,201.33	11.42	553.11	—
自己資本比率 (%)	—	—	92.19	92.7	92.6
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	15,119	86,811	—	—	30,067
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	△8,218	△21,000	—	—	△60,616
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	△1,941	—	—	—	3,483
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高 (千円)	—	—	1,182,278	1,216,065	1,150,253
従業員数 (人)	—	—	39	38	46

(注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。

2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。

3. 第6期第2四半期連結累計期間及び第6期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期(当期)純損失であるため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結会計期間において、当社グループ（当社及び当社の関係会社）が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

3【関係会社の状況】

当第2四半期連結会計期間において、重要な関係会社の異動はありません。

4【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成21年12月31日現在

従業員数（人）	38(2)
---------	-------

(注) 従業員数は就業人員（当社グループからグループ外への出向者を除き、グループ外から当社グループへの出向者を含む。）であり、臨時雇用者数（パートタイマー、人材会社からの派遣社員、契約社員）は、当第2四半期連結会計期間平均雇用人員を（ ）外数で記載しております。

(2) 提出会社の状況

平成21年12月31日現在

従業員数（人）	28(2)
---------	-------

(注) 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者数（パートタイマー、人材会社からの派遣社員、契約社員）は、当第2四半期会計期間平均雇用人員を（ ）外数で記載しております。

第2【事業の状況】

1【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

該当事項はありません。

(2) 受注状況

該当事項はありません。

(3) 販売実績

当第2四半期連結会計期間の販売実績を事業の種類別セグメントごとに示すと、次のとおりであります。

事業の種類別セグメントの名称	販売高（千円）	前年同四半期比（％）
インターネット広告事業	129,749	142.8%
アプリケーションサービス事業	88,723	108.9%
オンライントラベル事業	18,872	325.4%
その他事業	1,613	235.0%
合計	238,959	133.6%

(注) 1. 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

2. セグメント間の取引については相殺消去しております。

3. オンライントラベル事業については前第3四半期連結会計期間よりプレコ株式会社から譲受けた国内ホテル総合予約サービス事業を追加しております。

2【事業等のリスク】

当第2四半期連結会計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

3【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

4【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績

当第2四半期連結会計期間におけるわが国経済は、世界的な景気後退が最悪期を脱し、企業業績が回復の兆しを見せ始めたものの、依然として厳しい雇用情勢を反映した個人消費の冷え込みが続いており、予断を許さない不安定な状況にあります。

このような状況ではありますが、一方でインターネット市場は引き続き拡大傾向にあります。パソコンに加え、携帯電話やスマートフォン（多機能電話）を用いたインターネット利用が広く普及するなどインターネット利用環境の多様化が進み、インターネットが利用できる電子機器を保有する世帯は、平成21年7月から9月期において前年同期比3.4ポイント増の66.0%となっております。また、電子商取引市場の拡大も続いており、インターネットを通じて商品・サービスを購入した世帯は前年同期比4.1ポイント増の26.2%となっております。（総務省調べ）

また、個人消費の冷え込みをうけて企業の値下げ競争が広がり、デフレ宣言が出されるなど、より安価な商品を求める消費者の節約志向は一層顕著なものとなっております。そんな中、事前に商品、価格情報を比較、検討することができる、比較サイトをはじめとしたインターネットメディアへの期待が高まりました。

このような環境の中、当社グループにおきましては総合比較サイト『比較.com』にて、引き続きショッピング比較サービスの再構築に注力いたしました。商品検索機能の整備、取扱商品数の拡大に加え、ページデザインの変更、商品の需要期に合わせた特集ページのリリースを積極的行いました。

アプリケーションサービス事業におきましては、主力製品である予約サイトコントローラ『手間いらず!』の継続的な改善を進め、導入施設数の増加に努めました。その結果、平成21年12月末時点において導入施設数が1,800施設を突破いたしました。また、宿泊予約サイトとのシステム連動も行き、利便性の向上をはかりました。

オンライントラベル事業におきましては、連結子会社の予約.com株式会社が運営する旅行予約サイト『予約.com』にて平成21年9月より開始した国内宿泊予約サービスの拡充を進め、取扱施設数が10,000施設を突破いたしました。また、モバイル版サイトがau及びソフトバンクのキャリア公式サイトに採用されました。さらに同社が運営する国内宿泊予約サイト『マル得ホテル予約』においては、ホテルとの共同キャンペーンを実施し、集客をはかりました。

その他事業におきましては、連結子会社の株式会社ヒメナ・アンド・カンパニーが、新商品の開発を進めました。平成21年10月にはアルコール感受性を判別する遺伝子検査キットを発売し、同12月には、携帯電話で撮影した食事画像を元に食事分析を行うサービスを開始いたしました。

この結果、当第2四半期連結会計期間の売上高は238,959千円（前年同期比33.6%増）、営業利益は46,204千円（前年同期比610.6%増）、経常利益は46,707千円（前年同期比407.9%増）、四半期純利益は17,911千円（前年同期比4783.4%増）となりました。

事業の種類別セグメントの業績は次のとおりであります。

① インターネット広告事業

インターネット広告事業におきましては、当社運営の総合比較サイト『比較.com』にてページビュー数及びユニークユーザー数が順調に伸び、収益の増加に貢献いたしました。

この結果、インターネット広告事業の売上高は129,749千円（前年同期比42.8%増）となりました。

② アプリケーションサービス事業

アプリケーションサービス事業におきましては、当社が開発、販売を行っている予約サイトコントローラ『手間いらず!』の利用宿泊施設数が堅調に推移いたしました。

この結果、アプリケーションサービス事業の売上高は88,723千円（前年同期比8.9%増）となりました。

③ オンライントラベル事業

オンライントラベル事業におきましては、連結子会社の予約.com株式会社が運営する旅行予約サイト『予約.com』にて、国内宿泊予約サービスの拡充を進め、取扱施設数を大幅に追加いたしました。また、モバイル版サイトのキャリア公式サイト化を進め、au及びソフトバンクの公式サイトに採用されました。

この結果、オンライントラベル事業の売上高は18,872千円（前年同期比225.4%増）となりました。

※ 前第3四半期連結会計期間よりプレコ株式会社から譲受けた国内ホテル総合予約サービス事業を追加しております。

④ その他事業

その他事業におきましては、連結子会社の株式会社ヒメナ・アンド・カンパニーが遺伝子情報に基づいた各種情報提供サービスの新商品を発売いたしました。また既存商品である遺伝子検査キットの販路拡大に向けた営業活動を行いました。

この結果、その他事業の売上高は1,613千円（前年同期比135.0%増）となりました。

(2) キャッシュ・フロー

当第2四半期連結会計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、第1四半期連結会計期間末と比べ52,763千円増加しました。その結果、当第2四半期連結会計期間末における資金の残高は1,216,065千円となりました。

当四半期連結会計期間における各キャッシュ・フローとそれらの要因は次のとおりです。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結会計期間において営業活動の結果獲得した資金は73,763千円となり、前年同四半期と比べ52,162千円増加いたしました。

これは、主として税金等調整前四半期純利益46,707千円、のれんの償却14,416千円、未払金の増加額8,862千円によるものです。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結会計期間において投資活動の結果使用した資金は21,000千円となり、前年同四半期と比べ17,424千円増加いたしました。

この内容は事業譲受による支出21,000千円です。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結会計期間において財務活動の結果移動した資金はありません。

(3) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結会計期間において新たに発生した事業上及び財務上の対処すべき課題について重要な変更はありません。

(4) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【設備の状況】

(1) 主要な設備の状況

当第2四半期連結会計期間において、主要な設備に重要な異動はありません。

(2) 設備の新設、除却等の計画

当第2四半期連結会計期間において、前第1四半期連結会計期間末において計画した重要な設備の新設、除却等について、重要な変更はありません。また、新たに確定した重要な設備の新設、拡充、改修、除却、売却等の計画はありません。

第4【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	100,000
計	100,000

②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末現在発行数（株） （平成21年12月31日）	提出日現在発行数（株） （平成22年2月12日）	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	32,382	32,382	東京証券取引所 （マザーズ）	単元株制度は採用 していません。
計	32,382	32,382	—	—

（注）発行済株式のうち400株は現物出資によるものであります。

(2)【新株予約権等の状況】

会社法に基づき発行した新株予約権は、次のとおりであります。

① 平成19年9月27日定時株主総会において決議された新株予約権の状況

	第2四半期会計期間末現在 （平成21年12月31日）
新株予約権の数（個）	70
新株予約権のうち自己新株予約権の数（個）	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数（株）	70
新株予約権の行使時の払込金額（円）	90,314
新株予約権の行使期間	自 平成21年11月1日 至 平成23年10月31日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の 発行価格及び資本組入額（円）	発行価格 90,314 資本組入額 45,157
新株予約権の行使の条件	（注）1
新株予約権の譲渡に関する事項	取締役会の承認を要します。
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—

（注）1. 権利確定条件は以下のとおりであります。

- ①新株予約権の割当てを受けた者は、新株予約権行使時においても当社または当社子会社または当社の関係会社の役員または従業員その他これに準ずる地位にあることを要する。ただし、取締役会が正当な理由があると認めた場合はこの限りでない。
- ②本新株予約権者は、権利行使期間内のいずれの年においても、本新株予約権の行使によって交付（株式の発行または株式の移転もしくは譲渡を含む。以下、同じ。）される株式の払込金額（当該行使に際し払い込むべき額をいい、新株の発行価額または株式の譲渡価額を含む。以下、「権利行使価額」という。）の合計額が、その年において既にした当社または他社の株式譲渡請求権もしくは新株引受権または新株予約権の行使によって交付される株式の権利行使価額と合計して年間1,200万円、または行使時において租税特別措置法

の適用を受けることができる権利行使価額の年間の合計額を超えないように、割当てを受けた本新株予約権を行使しなければならないものとする。

- ③本新株予約権者は、いかなる場合においても、当社の1単位の株式の数に満たない数を目的株式数として本新株予約権を行使してはならないものとする。
- ④本新株予約権者は、以下の区分に従って、割当てされた権利の一部または全部を行使することができる。
 なお、行使可能な株式数が1単位の株式数の整数倍でない場合は、端数を四捨五入し、1単位の株式数の整数倍とする。
- (1)発行日から2年を経過した日から3年目までは、割当新株予約権数の2分の1について権利を行使することができる。
- (2)発行日から3年を経過した日から行使期間最終日まで、割当新株予約権数のすべてについて権利を行使することができる。

② 平成19年9月27日定時株主総会において決議された新株予約権の状況

	第2四半期会計期間末現在 (平成21年12月31日)
新株予約権の数(個)	36(注)2
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数(株)	36
新株予約権の行使時の払込金額(円)	90,314
新株予約権の行使期間	自 平成21年11月1日 至 平成23年10月31日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 90,314 資本組入額 45,157
新株予約権の行使の条件	(注)1
新株予約権の譲渡に関する事項	取締役会の承認を要します。
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—

(注) 1. 権利確定条件は以下のとおりであります。

- ①新株予約権の割当てを受けた者は、新株予約権行使時においても当社または当社子会社または当社の関係会社の役員または従業員その他これに準ずる地位にあることを要する。ただし、取締役会が正当な理由があると認めた場合はこの限りでない。
- ②本新株予約権者は、権利行使期間内のいずれの年においても、本新株予約権の行使によって交付(株式の発行または株式の移転もしくは譲渡を含む。以下、同じ。)される株式の払込金額(当該行使に際し払い込むべき額をいい、新株の発行価額または株式の譲渡価額を含む。以下、「権利行使価額」という。)の合計額が、その年において既にした当社または他社の株式譲渡請求権もしくは新株引受権または新株予約権の行使によって交付される株式の権利行使価額と合計して年間1,200万円、または行使時において租税特別措置法の適用を受けることができる権利行使価額の年間の合計額を超えないように、割当てを受けた本新株予約権を行使しなければならないものとする。
- ③新株予約権者は、いかなる場合においても、当社の1単位の株式の数に満たない数を目的株式数として本新株予約権を行使してはならないものとする。

(注) 2. 退職等により権利を喪失した従業員の新株予約権の個数は除外しております。

③ 平成21年9月29日定時株主総会において決議された新株予約権の状況

	第2四半期会計期間末現在 (平成21年12月31日)
新株予約権の数(個)	35
新株予約権のうち自己新株予約権の数(個)	—
新株予約権の目的となる株式の種類	普通株式
新株予約権の目的となる株式の数(株)	35
新株予約権の行使時の払込金額(円)	46,300
新株予約権の行使期間	自 平成23年11月1日 至 平成25年10月31日
新株予約権の行使により株式を発行する場合の株式の発行価格及び資本組入額(円)	発行価格 46,300 資本組入額 23,150
新株予約権の行使の条件	(注) 1
新株予約権の譲渡に関する事項	取締役会の承認を要します。
代用払込みに関する事項	—
組織再編成行為に伴う新株予約権の交付に関する事項	—

(注) 1. 権利確定条件は以下のとおりであります。

- ①新株予約権の割当てを受けた者は、新株予約権行使時においても当社または当社子会社または当社の関係会社の役員または従業員その他これに準ずる地位にあることを要する。ただし、取締役会が正当な理由があると認めた場合はこの限りでない。
- ②本新株予約権者は、権利行使期間内のいずれの年においても、本新株予約権の行使によって交付(株式の発行または株式の移転もしくは譲渡を含む。以下、同じ。)される株式の払込金額(当該行使に際し払い込むべき額をいい、新株の発行価額または株式の譲渡価額を含む。以下、「権利行使価額」という。)の合計額が、その年において既にした当社または他社の株式譲渡請求権もしくは新株引受権または新株予約権の行使によって交付される株式の権利行使価額と合計して年間1,200万円、または行使時において租税特別措置法の適用を受けることができる権利行使価額の年間の合計額を超えないように、割当てを受けた本新株予約権を行使しなければならないものとする。
- ③新株予約権者は、いかなる場合においても、当社の1単位の株式の数に満たない数を目的株式数として本新株予約権を行使してはならないものとする。

(3) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成21年10月1日～ 平成21年12月31日	—	32,382	—	709,262	—	1,000,262

(5) 【大株主の状況】

平成21年12月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
渡邊 哲男	東京都品川区	24,730	76.4
福岡 範洋	神奈川県川崎市	463	1.4
中尾 彰宏	神奈川県横浜市	385	1.2
山口 憲一	東京都大田区	229	0.7
日本証券金融株式会社	東京都中央区日本橋茅場町1丁目2-10	191	0.6
三品 芳二	東京都町田市	184	0.6
マネックス証券株式会社	東京都千代田区丸の内1丁目11-1	133	0.4
伊藤 登	東京都港区	113	0.3
富田 敏光	京都府京都市	112	0.3
株式会社東日	東京都渋谷区渋谷3丁目5番1号	105	0.3
計	—	26,645	82.2

(6) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成21年12月31日現在

区分	株式数 (株)	議決権の数 (個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式 (自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式 (その他)	—	—	—
完全議決権株式 (自己株式等)	—	—	—
完全議決権株式 (その他)	普通株式 32,382	32,382	—
単元未満株式	—	—	—
発行済株式総数	32,382	—	—
総株主の議決権	—	32,382	—

② 【自己株式等】

平成21年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数 (株)	他人名義所有 株式数 (株)	所有株式数の 合計 (株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合 (%)
—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—

2 【株価の推移】

【当該四半期累計期間における月別最高・最低株価】

月別	平成21年7月	8月	9月	10月	11月	12月
最高 (円)	58,600	61,000	52,200	55,000	52,000	50,500
最低 (円)	45,200	48,900	39,000	34,500	42,300	44,700

(注) 最高・最低株価は、東京証券取引所マザーズ市場におけるものであります。

3 【役員】の状況】

前事業年度の有価証券報告書の提出日後、当四半期報告書の提出日までにおいて、役員の変動はありません。

第5【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、前第2四半期連結会計期間（平成20年10月1日から平成20年12月31日まで）及び前第2四半期連結累計期間（平成20年7月1日から平成20年12月31日まで）は、改正前の四半期連結財務諸表規則に基づき、当第2四半期連結会計期間（平成21年10月1日から平成21年12月31日まで）及び当第2四半期連結累計期間（平成21年7月1日から平成21年12月31日まで）は、改正後の四半期連結財務諸表規則に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、前第2四半期連結会計期間（平成20年10月1日から平成20年12月31日まで）及び前第2四半期連結累計期間（平成20年7月1日から平成20年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表については、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受け、また、当第2四半期連結会計期間（平成21年10月1日から平成21年12月31日まで）及び当第2四半期連結累計期間（平成21年7月1日から平成21年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表については、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	当第2四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末に係る 要約連結貸借対照表 (平成21年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,226,065	1,160,253
受取手形及び売掛金	122,347	105,310
繰延税金資産	21,414	58,339
その他	14,848	13,288
貸倒引当金	△4,121	△3,588
流動資産合計	1,380,553	1,333,603
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	2,167	2,167
減価償却累計額	△2,167	△2,167
建物及び構築物(純額)	0	0
その他	6,013	6,013
減価償却累計額	△6,013	△6,013
その他(純額)	0	0
有形固定資産合計	0	0
無形固定資産		
のれん	344,762	352,158
その他	3,006	3,156
無形固定資産合計	347,768	355,314
投資その他の資産		
繰延税金資産	2,205	1,693
その他	60,507	59,764
貸倒引当金	△5,059	△4,120
投資その他の資産合計	57,653	57,337
固定資産合計	405,421	412,651
資産合計	1,785,974	1,746,254
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	9,985	4,645
未払法人税等	3,793	3,208
その他	111,199	115,277
流動負債合計	124,978	123,131
負債合計	124,978	123,131
純資産の部		
株主資本		
資本金	709,262	709,262
資本剰余金	1,000,262	1,000,262
利益剰余金	△53,079	△91,980
株主資本合計	1,656,445	1,617,544
新株予約権	4,550	5,578
純資産合計	1,660,996	1,623,122
負債純資産合計	1,785,974	1,746,254

(2) 【四半期連結損益計算書】
【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成20年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年12月31日)
売上高	329,442	467,404
売上原価	46,800	49,725
売上総利益	282,642	417,679
販売費及び一般管理費	*1 309,817	*1 345,395
営業利益又は営業損失(△)	△27,175	72,284
営業外収益		
受取利息	2,383	520
為替差益	1,972	995
その他	123	433
営業外収益合計	4,480	1,949
営業外費用		
支払利息	3	—
営業外費用合計	3	—
経常利益又は経常損失(△)	△22,698	74,234
特別利益		
貸倒引当金戻入額	345	—
新株予約権戻入益	—	1,695
特別利益合計	345	1,695
特別損失		
固定資産除却損	655	—
特別損失合計	655	—
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△23,008	75,929
法人税、住民税及び事業税	15,847	615
法人税等調整額	836	36,412
法人税等合計	16,683	37,028
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△39,692	38,901

【第2四半期連結会計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)
売上高	178,815	238,959
売上原価	22,116	24,732
売上総利益	156,699	214,227
販売費及び一般管理費	*1 150,196	*1 168,023
営業利益	6,502	46,204
営業外収益		
受取利息	962	173
為替差益	1,729	323
その他	4	6
営業外収益合計	2,696	503
営業外費用		
支払利息	3	—
営業外費用合計	3	—
経常利益	9,195	46,707
特別利益		
貸倒引当金戻入額	280	—
特別利益合計	280	—
特別損失		
固定資産除却損	655	—
特別損失合計	655	—
税金等調整前四半期純利益	8,820	46,707
法人税、住民税及び事業税	8,089	344
法人税等調整額	364	28,452
法人税等合計	8,453	28,796
四半期純利益	366	17,911

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成20年7月1日 至 平成20年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成21年7月1日 至 平成21年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△23,008	75,929
減価償却費	3,232	—
のれん償却額	24,498	28,395
貸倒引当金の増減額(△は減少)	△345	1,472
受取利息及び受取配当金	△2,383	△520
売上債権の増減額(△は増加)	△4,729	△16,468
仕入債務の増減額(△は減少)	7,926	5,340
預り金の増減額(△は減少)	△27,869	△11,651
その他	11,506	4,180
小計	△11,173	86,678
利息及び配当金の受取額	2,329	574
法人税等の還付額	47,621	51
法人税等の支払額	△23,657	△494
営業活動によるキャッシュ・フロー	15,119	86,811
投資活動によるキャッシュ・フロー		
無形固定資産の取得による支出	△4,102	—
有形固定資産の取得による支出	△80	—
敷金及び保証金の差入による支出	△3,459	—
敷金及び保証金の回収による収入	2,656	—
連結の範囲の変更を伴う子会社株式の取得による支出	△3,232	—
事業譲受による支出	—	△21,000
投資活動によるキャッシュ・フロー	△8,218	△21,000
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の返済による支出	△1,000	—
長期借入金の返済による支出	△941	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△1,941	—
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	4,958	65,811
現金及び現金同等物の期首残高	1,177,320	1,150,253
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 1,182,278	※1 1,216,065

【表示方法の変更】

当第2四半期連結会計期間（自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日）

（四半期連結貸借対照表関係）

前第2四半期連結会計期間において、流動資産の「その他」に含めて表示しておりました「繰延税金資産」は、重要性が増したため、当第2四半期連結会計期間では区分掲記することといたしました。なお、前第2四半期連結会計期間の流動資産の「その他」に含まれる「繰延税金資産」は2,859千円であります。

【簡便な会計処理】

当第2四半期連結累計期間（自 平成21年7月1日 至 平成21年12月31日）

該当事項はありません。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

当第2四半期連結累計期間（自 平成21年7月1日 至 平成21年12月31日）

該当事項はありません。

【注記事項】

（四半期連結貸借対照表関係）

該当事項はありません。

（四半期連結損益計算書関係）

前第2四半期連結累計期間 （自 平成20年7月1日 至 平成20年12月31日）	当第2四半期連結累計期間 （自 平成21年7月1日 至 平成21年12月31日）
※1. 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。	※1. 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。
支払手数料 89,719千円	広告宣伝費 90,438千円 給与手当 64,798千円 貸倒引当金繰入額 1,472千円 支払手数料 74,452千円

前第2四半期連結会計期間 （自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日）	当第2四半期連結会計期間 （自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日）
※1. 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。	※1. 販売費及び一般管理費の主要な費目及び金額は次のとおりであります。
支払手数料 41,437千円	広告宣伝費 47,164千円 給与手当 29,932千円 貸倒引当金繰入額 754千円 支払手数料 36,889千円

（四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係）

前第2四半期連結累計期間 （自 平成20年7月1日 至 平成20年12月31日）	当第2四半期連結累計期間 （自 平成21年7月1日 至 平成21年12月31日）
※1. 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 （平成20年12月31日現在）	※1. 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 （平成21年12月31日現在）
現金及び預金 717,278千円 有価証券 500,000千円 預入期間が3ヶ月超の定期預金 <u>△35,000千円</u> 現金及び現金同等物 1,182,278千円	現金及び預金 1,226,065千円 預入期間が3ヶ月超の定期預金 <u>△10,000千円</u> 現金及び現金同等物 1,216,065千円

(株主資本等関係)

当第2四半期連結会計期間末(平成21年12月31日)及び

当第2四半期連結累計期間(自平成21年7月1日至平成21年12月31日)

1. 発行済株式の種類及び総数
普通株式 32,382株

2. 自己株式の種類及び株式数
該当事項はありません。

3. 新株予約権等に関する事項
ストック・オプションとしての新株予約権
新株予約権の四半期連結会計期間末残高 親会社 4,550千円
第5回新株予約権は権利行使期間が到来しておりません。

4. 配当に関する事項
該当事項はありません。

(セグメント情報)

【事業の種類別セグメント情報】

前第2四半期連結会計期間(自平成20年10月1日至平成20年12月31日)

	インターネット 広告事業 (千円)	アプリケーシ ョンサービス 事業 (千円)	オンライ ントラベル事業 (千円)	その他事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高							
(1) 外部顧客に対す る売上高	90,875	81,453	5,799	686	178,815	—	178,815
(2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	90,875	81,453	5,799	686	178,815	—	178,815
営業利益又は 営業損失(△)	17,332	11,619	△15,923	△719	12,310	△5,807	6,502

当第2四半期連結会計期間(自平成21年10月1日至平成21年12月31日)

	インターネット 広告事業 (千円)	アプリケーシ ョンサービス 事業 (千円)	オンライ ントラベル事業 (千円)	その他事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高							
(1) 外部顧客に対す る売上高	129,749	88,723	18,872	1,613	238,959	—	238,959
(2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	129,749	88,723	18,872	1,613	238,959	—	238,959
営業利益又は 営業損失(△)	35,204	35,613	△7,518	△969	62,330	△16,125	46,204

(注) 1. 事業区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2. 各事業の主な製品

- (1) インターネット広告事業 …… 当社運営の広告媒体(総合比較サイト『比較.com』等)
- (2) アプリケーションサービス事業 …… 『手間いらず!』、『手間なし』及び『ネクストCMS』
- (3) オンライントラベル事業 …… 旅行予約サイト『予約.com』及び『マル得ホテル予約』
- (4) その他事業 …… 遺伝子検査キット『ヒメナの遺伝子ダイエット』
『ABO式血液型遺伝子検査キット』及び
『ヒメナのアルコール感受性遺伝子検査キット』

前第2四半期連結累計期間（自 平成20年7月1日 至 平成20年12月31日）

	インターネット 広告事業 (千円)	アプリケーシ ョンサービ ス事業 (千円)	オンライ ントラベル事業 (千円)	その他事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高							
(1) 外部顧客に対す る売上高	156,571	158,399	13,785	686	329,442	—	329,442
(2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	156,571	158,399	13,785	686	329,442	—	329,442
営業利益又は 営業損失 (△)	5,015	18,948	△40,100	△719	△16,855	△10,319	△27,175

当第2四半期連結累計期間（自 平成21年7月1日 至 平成21年12月31日）

	インターネット 広告事業 (千円)	アプリケーシ ョンサービ ス事業 (千円)	オンライ ントラベル事業 (千円)	その他事業 (千円)	計 (千円)	消去又は 全社 (千円)	連結 (千円)
売上高							
(1) 外部顧客に対す る売上高	248,167	179,431	36,871	2,934	467,404	—	467,404
(2) セグメント間の 内部売上高又は 振替高	—	—	—	—	—	—	—
計	248,167	179,431	36,871	2,934	467,404	—	467,404
営業利益又は 営業損失 (△)	57,824	71,436	△21,315	△1,599	106,346	△34,061	72,284

(注) 1. 事業区分は、内部管理上採用している区分によっております。

2. 各事業の主な製品

- (1) インターネット広告事業 …… 当社運営の広告媒体（総合比較サイト『比較.com』等）
- (2) アプリケーションサービス事業 …… 『手間いらず!』、『手間なし』及び『ネクストCMS』
- (3) オンライントラベル事業 …… 旅行予約サイト『予約.com』及び『マル得ホテル予約』
- (4) その他事業 …… 遺伝子検査キット『ヒメナの遺伝子ダイエット』
『ABO式血液型遺伝子検査キット』及び
『ヒメナのアルコール感受性遺伝子検査キット』

【所在地別セグメント情報】

前第2四半期連結会計期間（自平成20年10月1日 至平成20年12月31日）及び当第2四半期連結会計期間（自平成21年10月1日 至平成21年12月31日）

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

前第2四半期連結累計期間（自平成20年7月1日 至平成20年12月31日）及び当第2四半期連結累計期間（自平成21年7月1日 至平成21年12月31日）

本邦以外の国又は地域に所在する連結子会社及び在外支店がないため、該当事項はありません。

【海外売上高】

前第2四半期連結会計期間（自平成20年10月1日 至平成20年12月31日）及び当第2四半期連結会計期間（自平成21年10月1日 至平成21年12月31日）

海外売上高が連結売上高の10%未満であるため、記載を省略しています。

前第2四半期連結累計期間（自平成20年7月1日 至平成20年12月31日）及び当第2四半期連結累計期間（自平成21年7月1日 至平成21年12月31日）

海外売上高が連結売上高の10%未満であるため、記載を省略しています。

（ストック・オプション等関係）

当第2四半期連結会計期間（自平成21年10月1日 至平成21年12月31日）

1. 当第2四半期連結会計期間に付与したストック・オプションの内容

	平成21年ストック・オプション
付与対象者の区分及び人数	当社従業員 3名
株式の種類別のストック・オプションの付与数	普通株式 35株
付与日	平成21年11月2日
権利確定条件	付与日（平成21年11月2日）以降、権利確定日（平成23年10月31日）まで継続して勤務していること。
対象勤務期間	自平成21年11月2日 至平成23年10月31日
権利行使期間	自平成23年11月1日 至平成25年10月31日
権利行使価格（円）	46,300
付与日における公正な評価単価（円）	22,780

(企業結合等関係)

当第2四半期会計期間(自平成21年10月1日至平成21年12月31日)

パーチェス法の適用

1. 被取得企業の名称及びその事業の内容、企業結合を行った主な理由、企業結合日、企業結合の法的形式並びに結合後企業の名称

(1) 被取得企業の名称及びその事業の内容

被取得企業の名称 プレコ株式会社

事業の内容 ビジネスホテル予約事業

(2) 企業結合を行った主な理由

予約.com国内事業の今後の成長と地域拡大をはかるため。

(3) 企業結合日

平成21年11月1日

(4) 企業結合の法的形式

事業譲受

(5) 企業結合後の企業の名称

変更はありません。

2. 四半期財務諸表に含まれている取得した事業の業績の期間

平成21年11月1日から平成21年12月31日まで

3. 被取得企業の取得原価及びその内訳

取得の対価(現金) 21,000千円

取得原価 21,000千円

4. 発生したのれんの金額、発生原因、償却方法及び償却期間

(1) のれん金額

21,000千円

(2) 発生原因

譲受資産及び負債がないため支払金額をのれんとして計上しております。

(3) 償却の方法及び償却の期間

8年間にわたる均等償却

5. 企業結合が当事業年度の開始の日に完了したと仮定した場合の当四半期累計期間に係る四半期損益計算書に及ぼす影響の概算額

影響は軽微であります。なお、当該注記5.については監査証明を受けておりません。

(1株当たり情報)

1. 1株当たり純資産額

当第2四半期連結会計期間末 (平成21年12月31日)	前連結会計年度末 (平成21年6月30日)
1株当たり純資産額 51,153.29円	1株当たり純資産額 49,951.96円

2. 1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額等

前第2四半期連結累計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年12月31日)
1株当たり四半期純損失金額 1,242.40円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式は存在するものの1株当たり四半期純損失であるため記載しておりません。	1株当たり四半期純利益金額 1,201.34円 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額 1,201.33円

(注) 1株当たり四半期純利益金額又は1株当たり四半期純損失金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自平成20年7月1日 至平成20年12月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成21年7月1日 至平成21年12月31日)
1株当たり四半期純利益又は四半期純損失金額		
四半期純利益又は四半期純損失(△) (千円)	△39,692	38,901
普通株主に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益又は四半期純損失(△) (千円)	△39,692	38,901
期中平均株式数 (株)	31,948	32,382
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額		
四半期純利益調整額 (千円)	—	—
普通株式増加数 (株)	—	0.33
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜在株式で、前連結会計年度末から重要な変動があったものの概要	—	—

前第2四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)		当第2四半期連結会計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)	
1株当たり四半期純利益金額	11.48円	1株当たり四半期純利益金額	553.12円
潜在株式調整後1株当たり四半期 純利益金額	11.42円	潜在株式調整後1株当たり四半期 純利益金額	553.11円

(注) 1株当たり四半期純利益金額及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結会計期間 (自 平成20年10月1日 至 平成20年12月31日)	当第2四半期連結会計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額		
四半期純利益 (千円)	366	17,911
普通株主に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益 (千円)	366	17,911
期中平均株式数 (株)	31,948	32,382
潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額		
四半期純利益調整額 (千円)	—	—
普通株式増加数 (株)	162	0.65
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後1株 当たり四半期純利益金額の算定に含めなかった潜 在株式で、前連結会計年度末から重要な変動が あったものの概要	—	—

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

(リース取引関係)

当第2四半期連結会計期間 (自 平成21年10月1日 至 平成21年12月31日)

著しい変動がないため記載を省略しております。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成 21年 2月 13日

比較.com株式会社

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小林 宏 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 沼田 徹 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている比較.com株式会社の平成20年7月1日から平成21年6月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成20年10月1日から平成20年12月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成20年7月1日から平成20年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、比較.com株式会社及び連結子会社の平成20年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

追記情報

継続企業の前提に関する注記に記載されているとおり、会社は、前々連結会計年度以降、当第1四半期連結累計期間まで、営業損失、経常損失及び四半期純損失を継続的に計上し、営業キャッシュ・フローもマイナスが継続しており、当第2四半期連結累計期間においても、営業損失、経常損失及び四半期純損失を計上しているため、継続企業の前提に関する重要な疑義が存在している。当該状況に対する経営者の対応等は当該注記に記載されている。四半期連結財務諸表は継続企業を前提にして作成されており、このような重要な疑義の影響を四半期連結財務諸表には反映していない。

重要な後発事象に記載されているとおり、連結子会社であるグローバルトラベルオンライン株式会社は、平成21年1月30日開催の取締役会決議に基づき、同一日付でホテル予約サイト事業を譲り受けることについての事業譲渡契約書を締結した。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は四半期報告書提出会社が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲には、XBRLデータ自体は含まれておりません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成22年2月5日

比較.com株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 井上 隆 司 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 中 塚 亨 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている比較.com株式会社の平成21年7月1日から平成22年6月30日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成21年10月1日から平成21年12月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成21年7月1日から平成21年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書及び四半期連結キャッシュ・フロー計算書について四半期レビューを行った。この四半期連結財務諸表の作成責任は経営者にあり、当監査法人の責任は独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューは、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続により行われており、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べ限定された手続により行われた。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、比較.com株式会社及び連結子会社の平成21年12月31日現在の財政状態、同日をもって終了する第2四半期連結会計期間及び第2四半期連結累計期間の経営成績並びに第2四半期連結累計期間のキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は四半期報告書提出会社が別途保管しております。
2. 四半期連結財務諸表の範囲には、XBRLデータ自体は含まれておりません。